

牧野富太郎と『牧野日本植物図鑑』

4月、NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」が始まった。このドラマの主人公は、高知県出身の植物学者・牧野富太郎博士がモデルである。牧野富太郎博士は江戸時代末期の文久2年(1862年)に生まれ、明治大正昭和を生きた。1500以上の日本植物に学名をつけ、『牧野日本植物図鑑』を製作して「日本植物分類学の父」といわれている人物である。



『牧野日本植物図鑑』は、牧野の名前が冠してあるように、牧野博士自身が植物図を描いて説明を付けた図鑑である。私は大学の生物学の授業で『牧野日本植物図鑑』のことを知り、牧野博士本人が描いたという植物図の美しさに感動した。すぐにポケットサイズの『学生版原色牧野日本植物図鑑』を買って、以来フィールドワークに持ち歩いたり、四季折々に両親や友人に送る葉書にこの図鑑から植物図を模写したりするなど、今も大事にしている。牧野博士の植物図は緻密で、葉や花のみならず、根や実、分解図まで描かれている。渋谷章著『牧野富太郎～私は草木の精である』には、「1888年発行『日本植物志図篇』の製作時には、1年間、印刷所で石版印刷の印刷技術を学ぶほど印刷にもこだわりを持っていた。1900年発行『大日本植物志』の原図は、印刷された図よりいっそう細かい線になっている所もあり、牧野富太郎博士はその細い線を3本のネズミの毛で作った特別の蒔絵筆で息を凝らしながら描いた。」と書かれている。写真ではわかりにくい点が、イラストにすることで大変わかりやすいという特徴をもつと思う。また、牧野博士の植物の解説も、とてもおもしろい。

今回、牧野博士について調べて、尊敬する博士の家が東京都練馬区大泉学園駅にあることを知った。私もかつて近所の武蔵野の地に暮らしたことがあったので、博士をより身近に感じた。東京都立大学には博士の収集した植物標本が保管されていること、大泉学園駅の家が牧野記念庭園になっていることや高知県に牧野植物園があることがわかったので、牧野博士の業績を見に、訪れてみたいと思う。

～牧野富太郎に関する図書の所蔵～おススメですので、ぜひ読んでみてください。

- | | | |
|-------------------|--------|--|
| 🌸 牧野新日本植物大図鑑 | 楠元参考図書 | 請求記号 470/29 (禁帯出) (館内での閲覧になります) |
| 🌸 植物一家言：草と木は天の恵み | 楠元開架 | 請求記号 470/58 |
| 🌸 牧野植物図鑑の謎 | 楠元開架 | 請求記号 470/64 |
| 🌸 植物記[1] 植物記[2] | 楠元書庫 | 請求記号 470/49/(1), 470/49/(2) |
| 🌸 牧野富太郎～私は草木の精である | 日進所蔵 | 請求記号 289/01997
(学内相互利用サービスで取り寄せできます) |
| 🌸 牧野富太郎：なぜ花は匂うか | 電子ブック | 請求記号 EB470.4/1
(学内のネットワークに接続できる端末から読むことができます)
(晴耕雨読司書) |

